

平成 25 年度決算報告書



株式会社エフエム東京

第 49 期（2013 年度）事業活動の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策に対する期待感を背景に円高の是正や株価上昇により国内生産や輸出が持ち直し、緩やかな回復基調で推移しました。

こうした経済環境の下、平成 25 年の日本の総広告費（株電通推定）は 5 兆 9,762 億円（前年比 1.4%増）と 2 年連続で前年を上回りましたが、ラジオ広告費については前年比 0.2%減となり、当社グループにとって依然厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中、当社グループでは、主力の放送事業において、JFN38 局の全国ネットワークを活かしながらソーシャルメディアをはじめとする統合メディア展開を実践することにより売上シェアの拡大を図るとともに、その他の事業分野においても収益性の改善に取り組みました。その結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は 189 億 6 千万円（前期比 3.7%増）、営業利益は 13 億 2 百万円（前期比 8.3%増）、経常利益は 15 億 9 千 2 百万円（前期比 22.7%増）、当期純利益は 9 億 7 千 4 百万円（前期比 50.3%増）となりました。

当社単体の業績については、売上高は 149 億 6 千 4 百万円（前期比 2.7%増）、営業利益は 11 億 4 千 3 百万円（前期比 6.6%増）、経常利益は 12 億 3 千 6 百万円（前期比 2.2%増）、当期純利益は 7 億 2 千 4 百万円（前期比 3.4%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下のとおりです。

<放送事業活動>

当社は、行動理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を放送活動の実践基軸とし、「優しさと思いやりと温かみのある番組作り」に継続して取り組んでいます。

平成 25 年 4 月の番組改編では、平日午後の時間帯にオフィスリスナーたちに知的発見を届ける「アポロン」（月～木曜 13:00～14:55）、ラジオの中の“会社”という設定で 20 代の給与生活者のコミュニティ創出を目指す「Skyrocket Company」（月～木曜 17:00～19:00）の 2 つの生ワイド番組をスタートさせました。10 月には大日本印刷株式会社と共同開発したスマートフォン向け「Skyrocket Company」公式アプリをリリースし、放送からスマホアプリを通じて店舗へと人を動かす「O2O2O」のシームレスコミュニケーションの具現化を図っております。一方、週末の番組には、リスナーの想像力に訴えかけるラジオドラマ「ピートのふしぎなガレージ」（土曜 17:00～17:50 全国ネット）、映画好きのゲストが名作のウンチクを語る「日曜シネマテーク」（日曜 15:30～15:55 全国ネット）等をスタートさせました。

特別番組では、8 月に脚本家倉本聰演出によるホラーラジオドラマ「山霧の深い晩」（原作：北條秀司）を放送（8 月 14 日 20:00～21:40）、FM 放送ならではの音像表現として話題を集めました。9 月には伊勢神宮式年遷宮を記念し、倉木麻衣による参集殿奉納コンサートを実施するとともに、番組「未来へと続く森～伊勢神宮が見つめてきた日本」を FM 三重と共同制作しました（9 月 28 日 22:00～22:55 全国ネット）。また、JFN38 局がグローバル時代を生きる日本の若者にエールを送る「FM フェスティバル 未来授業～明日の日本人たちへ」は 4 年目を迎え、今回はスプツニ子！、安藤忠雄、池上彰、姜尚中、倉本聰、長沼毅の各氏を講師に招き、東京・京都・広島 の 3 会場で公開授業を実施しました。この模様は 11 月 4 日（16:00～19:00）と 9 日（22:00～22:55）に全国ネットで放送。講義のノーカット完全版ビデオ Podcast は、「iTunes BEST of 2013」でベストビデオ Podcast に選出された他、シリーズ 4 回の総計で 1,890 万ダウンロードを達成しました。

当社では東日本大震災以降、被災地の復興を願う取り組みを継続しており、平成 25 年度においても様々な企画を実施しました。

特に、今後想定される大規模地震などの自然災害に対してメディアとしての公共的使命

を果たすため、当社をはじめ JFN38 局は、平成 25 年 9 月 1 日防災の日に、全国に 24,000 の郵便局を有する日本郵便株式会社と災害時に情報協力を行う防災協定を締結しました。続く 11 月 1 日にはイオン株式会社と協定を締結し、全国イオン各店舗と各地域の FM 局の連携により、災害時に必要な「安全確保」「生活物資」「災害情報提供」を備えた総合防災拠点を構築してまいります。さらに、平成 26 年 1 月 17 日には全国 213 のコミュニティ FM 局が加盟する JCBA（日本コミュニティ放送協会）と協定を締結。地域、県域、全国の情報連携体制を強化して行きます。災害時のファースト・インフォーマーとして、日本最大の災害情報ネットワーク構築を目指し、今後も災害報道体制の拡充に取り組んでまいります。

人気ラジオドラマ番組「あ、安部礼司」（日曜 17:00～17:55 全国ネット）では、平成 25 年 12 月 22 日に横浜で公開イベント「安部魂」を開催。8 時間超に亘り会場と岩手県の臨時災害 FM 局「かまいしさいがい FM」を結び生中継したドラマは、世界一長いラジオドラマとしてギネス世界記録に認定され話題を呼びました。またドラマには岩手県知事、釜石市長ほか、釜石に在住のリスナーも特別参加し、希望のストーリーと復興に向けた力強い決意を伝えました。

震災から 3 年目となる平成 26 年 3 月 11 日には、震災直後より被災地の人たちに向き合ってきたレギュラー番組「LOVE&HOPE ～ヒューマン・ケア・プロジェクト」（月～金曜 6:31～6:40）の特別番組として「これからを見つめて～LOVE&HOPE 3 年目の春だより」（13:00～15:45）を放送。復興の“今”“明日”を伝えたこの番組は、平成 25 年度の放送批評懇談会ギャラクシー賞ラジオ部門に入賞しました。さらに、「LOVE&HOPE Special ～被災地から学ぶ知恵」（16:00～16:55）を同日に全国ネットで放送、番組で紹介した被災地で実際に役立った生活の知恵や防災情報をまとめ、保存版「LOVE&HOPE～防災ハンドブック 2014」を 51 万 5,000 部製作しました。このハンドブックは、防災協定により全国の郵便局で配布しています。また、同日夜の「SCHOOL OF LOCK!」（月～木曜 22:00～23:55／金曜 22:00～22:55 全国ネット）では、番組で交流を続けてきた東北の 10 代リスナーたちの協力で、3 年を経てようやく言葉にできるあの瞬間の出来事と今、そして未来への想いを綴った「未来新聞」を製作し、放送と WEB で展開しました。

平成 25 年、富士山がユネスコの世界文化遺産に登録されましたが、当社では平成 13 年から「アースコンシャス」活動の一環として、JFN38 局のパーソナリティとリスナーが参加する「Earth Conscious Act in Mt. FUJI」を毎年実施、富士山のごみ清掃を行っており、今後も美しい自然を大切にすることを育む活動を続けてまいります。

「V-Low マルチメディア放送」に関しては、平成 25 年 12 月 10 日に総務省が「99MHz を超え 108MHz 以下の周波数を使用する特定基地局の開設に関する指針」を制定、これを受け特定基地局の開設計画の認定申請（ハード事業者の募集）が平成 25 年 12 月 25 日から平成 26 年 2 月 3 日の間受け付けられました。当社は 100%子会社として株式会社 VIP を設立し、全国 7 地域でハード事業者の認定を VIP 社名義で申請しました。競願申請者は存在せず、この後、総務省の事前審査および電波監理審議会への諮問を経て認定を受ける見通しです。

V-Low マルチメディア放送のコンテンツ、サービス、端末については、今年度で 6 期目にあたる「マルチメディア放送ビジネスフォーラム」において、会員企業 125 社との共同活動により開発を推進しており、活動内容も本放送を踏まえた具体的なものに深化しております。中でも、防災無線の進化形として、災害時に放送波で強制起動させ音声とテキストで情報を伝える次世代型防災端末を開発。自治体との連絡会を設置し、普及推進を目指しています。

今後はハード事業者認定に続き、ソフト事業者の申請と認定等、平成 26 年度中の本放送開始に向け準備を進めてまいります。

<企画・制作事業活動>

当社理念の「アース&ヒューマンコンシャス」を象徴するイベントとして毎年4月に世界に向け発信しているアースデーコンサートは24回目を迎え、「EARTH×HEART LIVE 2013」と銘打って開催。日本の人気バンド flumpool とアジアで高い人気を誇る台湾のロックバンド Mayday が競演、ライブの様子は、JFN38局に加えアジアをはじめ世界各国で放送されたほか、YouTubeでも世界へ配信されました。また、会場募金や番組に寄せられた募金はコンサートの収益の一部とともに「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」に寄付されました。さらに、12月には、地球環境保全のメッセージをアジアの音楽ファンと共有する試みとして、韓国・シンガポール・台湾を巡るライブ・サーキット「EARTH×HEART Project」を実施。日本の人気バンド ASIAN KUNG-FU GENERATION と STRAIGHTENER が、現地ミュージシャンと共演を果たし話題を集めました。

当社が「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の一環として平成22年から展開している社会貢献活動「HelloSmile（子宮頸がん予防啓発プロジェクト）」では、平成25年4月に7回目となる「HelloSmile Live 2013」を開催、5月には90周年を迎えた日比谷野外音楽堂でのライブを実施するなど、人気アーティストが予防啓発を呼びかけました。

また、7月には日本のJAZZ界を代表する渡辺貞夫と山下洋輔の競演コンサートを実現。さらに、12月には4回目を迎えた西本智実指揮による「夢の第九コンサート」、平成26年3月には「JET STREAM 2014 “LIVE IN CONCERT”」を実施。その他、サザンオールスターズ、山下達郎、B'z、いきものがかり、福山雅治等、日本を代表する多彩なアーティストのコンサートを主催しました。

一方、海外アーティストでは、4月に韓国の大人気グループ JYJ の3年ぶりの来日公演、11月にポール・マッカートニーの11年ぶりの公演をそれぞれ3日間にわたって東京ドームで開催し、エンタテインメント業界に大きな話題を提供しました。

映画では、ベストセラー小説を映画化した「永遠の0」に出資、記録的な大ヒットとなりました。その他、山田洋次監督「小さいうち」等の話題作にも参画いたしました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、主力事業である携帯電話端末向けコンテンツ配信事業において、拡大を続けるスマートフォン関連市場に向けたサービスの開発・強化に引き続き取り組みました。

平成25年5月には、NTTドコモの新しい定額アプリ使い放題サービス「スゴ得」への自社コンテンツ提供を開始、KDDIの「auスマートパス」に続き収益基盤を拡大しました。また、ゲーム部門においては、ユーザーの志向の変化に対応するため、SNSプラットフォーム向けサービスからアプリストア向けの所謂ネイティブアプリに開発をシフトするとともに、人気の女性向け恋愛ゲームをソニー・プレイステーション・ポータブル版として提供するなど、既存コンテンツの二次利用を図りました。

一方、企業向けアプリやWEBサービス等の開発受託を行うソリューション事業部門では、開発受託案件の受注が好調に推移しました。

<賃貸事業活動>

オフィスビル「JFNセンター」「メディアセンター」等の賃貸事業を展開いたしました。

<その他の事業活動>

TOKYO FM少年合唱団は、フェニーチェ歌劇場日本公演「オテロ」をはじめ、トリノ王立歌劇場日本公演「トスカ」、新国立劇場「カルメン」といった世界に名立たるオペラに出演、また初のオリジナルCDをリリースする等、その存在価値を一層高めることができました。その他、直営2店舗によるレストラン事業を展開いたしました。

前期比較損益計算書（連結）

平成25年4月1日～平成26年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成26年3月期 (H25. 4. 1～H26. 3. 31)	平成25年3月期 (H24. 4. 1～H25. 3. 31)	前期比
売上高	18,960,122	18,290,989	103.7%
売上原価	12,258,888	11,874,892	103.2%
売上総利益	6,701,233	6,416,096	104.4%
販売費及び一般管理費	5,399,003	5,213,152	103.6%
（内のれん償却額）	128,281	128,323	100.0%
営業利益	1,302,230	1,202,944	108.3%
（売上高営業利益率）	6.9%	6.6%	
営業外収益	351,482	165,383	212.5%
営業外費用	61,633	70,808	87.0%
経常利益	1,592,079	1,297,518	122.7%
（売上高経常利益率）	8.4%	7.1%	
特別利益	19,207	—	—
特別損失	23,913	38,381	62.3%
税金等調整前当期純利益	1,587,373	1,259,137	126.1%
法人税、住民税及び事業税	143,928	129,199	111.4%
法人税等調整額	452,570	461,099	98.2%
少数株主損益等調整前 当期純利益	990,874	668,837	148.1%
少数株主利益	16,440	20,370	80.7%
当期純利益	974,433	648,467	150.3%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較損益計算書（当社単体）

平成25年4月1日～平成26年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成26年3月期 (H25.4.1～H26.3.31)	平成25年3月期 (H24.4.1～H25.3.31)	前期比
売上高	14,964,522	14,571,131	102.7%
売上原価	9,820,022	9,621,910	102.1%
売上総利益	5,144,500	4,949,220	103.9%
販売費及び一般管理費	4,000,888	3,876,385	103.2%
営業利益	1,143,611	1,072,835	106.6%
（売上高営業利益率）	7.6%	7.4%	
営業外収益	150,605	200,033	75.3%
営業外費用	57,736	62,601	92.2%
経常利益	1,236,479	1,210,267	102.2%
（売上高経常利益率）	8.3%	8.3%	
特別利益	23,498	—	—
特別損失	21,122	33,835	62.4%
税引前当期純利益	1,238,855	1,176,431	105.3%
法人税、住民税及び事業税	107,767	98,883	109.0%
法人税等調整額	406,737	376,799	107.9%
当期純利益	724,350	700,748	103.4%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成25年4月1日～平成26年3月31日

(単位:千円)

	平成26年3月期 (H25.4.1～H26.3.31)	平成25年3月期 (H24.4.1～H25.3.31)	前期比
売上高	14,964,522	14,571,131	102.7%
放送事業収入	12,197,177	12,183,259	100.1%
放送収入	8,381,797	8,083,095	103.7%
タイム放送料	6,013,018	5,860,830	102.6%
スポット放送料	2,368,778	2,222,264	106.6%
制作収入	2,115,199	2,030,848	104.2%
その他	1,700,181	2,069,315	82.2%
企画事業収入	2,105,253	1,721,525	122.3%
賃貸事業収入	558,550	559,686	99.8%
その他事業収入	103,540	106,660	97.1%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

49期(通期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

49期	48期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	5	大日本印刷
5	4	東急エージェンシー
6	11	クオラス
7	8	オフィスフラッグス
8	6	ビデオプロモーション
9	10	第一通信社
10	7	読売エージェンシー

<タイム>

<スポット>

49期	48期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	5	大日本印刷
5	7	第一通信社
6	9	オフィスフラッグス
7	8	ビデオプロモーション
8	10	クオラス
9	4	東急エージェンシー
10	6	読売エージェンシー

49期	48期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	アサツーディ・ケイ
4	6	東急エージェンシー
5	7	放送文化事業
6	10	クオラス
7	9	大日本印刷
8		エスプロックス
9		ユータムエンタープライズ
10	4	マッキャンエリクソン

平成26年3月期決算短信

平成26年5月29日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 千代 勝美

問合せ先責任者(役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 吉田 乾朗 TEL (03)3221-0080

定時株主総会開催予定日 平成26年6月25日 配当支払開始予定日 平成26年6月26日

(百万円未満切捨て)

1. 26年3月期の連結業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	18,960	3.7	1,302	8.3	1,592	22.7	974	50.3
25年3月期	18,290	0.7	1,202	9.2	1,297	24.0	648	33.9

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
26年3月期	1,087 61	— —	3.8	4.4	6.9
25年3月期	723 78	— —	2.6	3.7	6.6

(参考) 持分法投資損益 26年3月期 280百万円 25年3月期 97百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期	36,645	27,658	71.7	29,326 21
25年3月期	35,701	25,573	70.8	28,197 01

(参考) 自己資本 26年3月期 26,274百万円 25年3月期 25,262百万円

2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計) 百万円	配当性向 (連結) %	純資産 配当率(連結) %
	中間期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭			
25年3月期	60 00	60 00	120 00	108	16.6	0.4
26年3月期	60 00	60 00	120 00	108	11.0	0.4
27年3月期 (予想)	60 00	60 00	120 00			

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規1社(社名) BIC株式会社 除外一社

(注) BIC株式会社は、新規設立に伴い当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 有
- ② ①以外の会計方針の変更 無
- ③ 会計上の見積りの変更 有
- ④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期	900,000株	25年3月期	900,000株
② 期末自己株式数	26年3月期	4,057株	25年3月期	4,057株
③ 期中平均株式数	26年3月期	895,943株	25年3月期	895,943株

(参考) 個別業績の概要

1. 26年3月期の個別業績（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(1) 個別経営成績 (％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	14,964	2.7	1,143	6.6	1,236	2.2	724	3.4
25年3月期	14,571	3.8	1,072	11.5	1,210	21.2	700	61.2

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
26年3月期	804	83	—	—
25年3月期	778	61	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
26年3月期	34,873		26,962		77.3		29,958	29
25年3月期	35,169		26,185		74.5		29,094	97

(参考) 自己資本 26年3月期 26,962百万円 25年3月期 26,185百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、会社法に基づく連結計算書類及び計算書類等の監査手続は終了し、適正である旨の監査報告書を受領しております。